

H29 年度 学校評価の取り組み報告～ダイジェスト版～

①今年度の取り組み状況

H29.夏 1 回目実施

☆保育の計画性☆

夏に行った自己点検・自己評価の集計・分析を行った結果、8/1に行われた「新教育保育要領並びに幼保小連携について学ぶ」研修会で新教育保育要領についての意識が高まっている事で、全体的に課題として取り上げる職員が多くいました。そのため、新教育保育要領と当園の教育課程・基本方針や年間指導計画の関連性について2つのグループに分かれてグループワークを行いました。



<まとめ>

今までは新教育要領や教育課程・基本方針は難しいものと捉えていたが、普段行っている保育そのものであり、難しく捉える必要はないことに気づきました。さらに保育活動は新教育保育要領のねらいや内容に1対1で結びつくのではなく、5領域のほとんどすべてに関連していることも確認できました。

今後は、新教育保育要領・幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿と年間指導計画、教育課程・基本方針を照らし合わせていく必要性を感じました。



H29 冬 2 回目実施

☆保育の計画性☆

夏の自己点検・自己評価を受け2回目は再び『保育の計画性』の項目について自己点検・自己評価を行いました。その中で「指導計画に基づいた保育の環境の再構成」についての理解度に差があることがわかりました。そのため、2月のグループディスカッションでは「子供の成長にとって必要な環境をつくるにはどうしたらよいか？環境の再構成とはどんなことか？」をテーマに話し合いました。



<来年度に向けて>

「子どもが集中して遊んでいるときはどのようなときか？」「子どもが集中して遊ばないときはどのようなときか？」を出し合い、改善策を考えました。改善策を出していくと普段すでに自分たちが行っていることが多いことに気づきました。今回ははなしあったものを表にし、週案にはさみ、環境の再構成に迷った時の参考にします。



学校関係者評価委員会の方からのご意見

- ・グループディスカッション資料から日常的なPDCAの成果としてもっと保育が良くなるよう常々保育者たちが考えていることがよく読み取れる。自己点検・自己評価について、項目をクリアするために行っているのではなくその実情に合わせて工夫しながら行っていることが伝わってくる。無意識だがすでにやっていることを確認できる機会はとても大切である。
- ・学校評価委員会に本日参加されている保護者の話を聞いて感激した。保護者と園双方の連携が取れていることが感じられる。保護者の皆さんは園の良さを伝えてくれる大切な存在である。
- ・グループディスカッションで“子どもの生活リズム”についてあげられていたが、生活リズムは園だけでなく家庭の影響も大きいことと思う。園として家庭に働きかけることで保護者の意識も向上すると感じた。
- ・幼児教育は数や文字を教える“認知的な事”ではなく、“一つの遊びに遊び込む事が大切である”ということを職員間で考える機会があることは素晴らしい。
- ・教育や保育を充実させるため、今必要な事とされている新教育・保育要領に焦点をあてていて先進的だと感じる。

